

日本共産党市議会議員

おぜき栄子の

無料法律相談会
毎月第1火曜日(おぜき栄子事務所)

ホームページ <http://www.dl.dion.ne.jp/~smileiko>
Eメール smileiko@dl.dion.ne.jp

第57号
足利市田中町789
第3石川ビル3階
市議会議員
おぜき栄子
TEL・FAX
72-7848



にこっと通信

福祉と防災の街づくりに全力を!

6月議会報告

4月の市議選後、初の定例会議が開かれました。会期は、6月9日(木)から6月27日(月)で一般質問は、11人の議員が行いました。

主な議案

- 市税条例の改正
- 震災による被災者の負担軽減措置
- 一般会計補正予算
- 震災被害の復旧など
- 休日夜間急患
- 診療所開設の条例
- 市道鹿島山下線の
- 両毛線アンダーパス化
- 工事契約について



おぜき議員の一般質問

1、災害に強い「福祉と防災のまちづくり」

3月11日東日本大震災から、3ヶ月が経ちました。一番大変なことは、死者・行方不明者が2万5千人にのぼるといつ、多くの尊い命が奪われたことです。被災され、亡くなられた方々にこころから、哀悼の意を表します。

足利では、人的被害はなかったものの市の調査によると住宅の全壊1棟、半壊など10棟、一部損壊と塀などの損壊は3600件もの被害がでました。

中央地区のある市民は、「柱にひびが入り、内壁や屋根瓦が崩落した、工事費用が100万から200万もかかるといわれた、そんな金どこにあるのか」

「家の2階の棚が倒れ、めちゃくちゃになってしまった」「内壁が崩れた、どのくらいかかるか」などを訴え、突然の被害に怒りの矛先をどこに持っていていいのか途方に暮れていました。

停電となった地区の市民は「電話、携帯電話も繋がらず、長時間停電となり、何の情報も入らず、とても心配だった、市からの情報がほしかった」、いつまた地震がくるか、心配で眠れなかった、「どこに避難したらよいか、わからなかった」などと訴えています。

もう一つは、人災である原発事故が起きたことです。足利にも原発被害から避難されている方が、37世帯、

110人(6月現在)もいます。この方たちへの支援を強めることと、市内の放射能汚染状況を調査することが求められます。「足利の牧草に基準値を超える放射能が検出された」と報道されたことは、市民の不安をさらにひろげました。市内のある保育園では、園庭の土壌は大丈夫かと保護者から、電話が殺到したそうです。以上のことから次の質問を行い、当局を質しました。

おぜき：市の情報を素早く住民に知らせる防災無線の整備拡充を進めるべきではないか。

市長：財政的な問題からMCA陸上移動通信システムの整備、運用を進めているが、防災無線整備は今後の研究課題としたい。

おぜき：学校、公共施設の耐震化工事の推進はどうか。市長：平成27年までに終了させることで進めている。

おぜき：住宅リフォーム支援事業と耐震化工事支援策の周知と充実を進めるべきではないか。



仙台市若林区の被災状況を調査

市長：支援策として住宅リフォーム支援事業、利子補給耐震改修補助事業などを行っている。

おぜき：足利市地域防災計画強化と周知徹底をどのように図るのか。

市長：防災計画は見直しを行い、広報、ホームページ、防災訓練等で周知を図っていく。

おぜき：原発事故による放射線量などの調査及び結果の周知徹底を行うべきではないか。

市長：市民の安全を第一に、いち早く正確な情報を伝えたい。

市長の回答は、災害時の市民の不安や被災で苦しむ市民に寄り添った一歩でも前へ進める前向きな姿勢には程遠い回答となりました。

診療所は、48万円(月)を支払うことに!

新足利赤十字病院が市へ賃貸料を請求

新足利赤十字病院に休日・夜間急患診療所ができること土地を追加で無償貸与するとは、市民の利便性と安心しとてかかれる診療所として期待されます。しかし、賃貸料として月に48万円を支払う事になりました。(検診棟)

市は、新日赤病院に57000平方メートルの土地を20年間無償貸与としています。この土地を借地料として、条例上の試算をすると、営利目的ではない土地の借地料は評価額の年4%とするとも240万円となります。そのほかに建物に対して、1億円もの補助金を出しています。

実際には市の補助金の一部を使った建物を市が借りるといつことになります。さらに



役立たなかった

MCA移動通信システム

全員協議会(7月20日)でMCA陸上移動通信システムは、今回の震災には数ヶ所通じたのみであった事が明らかになりました。この無線装置を購入後に市内業者の告発により、消防職員(公判中)の見積もり合わせの改ざんが発覚し、市内業者より高見積もった田中電気株式会社(東京)から購入しました。市役所・上下水道等の無線機に接続するマイク23台分(50万円)も紛失?配達されたのかもはっきりしていないとのこと。皆さんの管理状況であることが明らかになりました。この無線装置の必要性が根本から問われることとなります。

災害のときにこそ 国保税の引き下げを！

市によると今回の震災で民生委員の方々により、1人暮らしの方々の安否確認を迅速に把握することができたこと。いつ起るか分からない災害に対して、1人暮らしのお年寄りや障がい者など要援護者に対してきめの細かい対応の備えが必要です。

ある業者は、「福島で製造していた車の部品が入らなくなり、親会社から仕事が来なくなった、いつまで続くのか心配だ」。ある商店では、「お客が減り続けている、収入が減り、国保税は高すぎる、引き下げてほしい」。また、あるお母さんは「パートの仕事が減った、医療費の立替払いも大変」と訴えています。災害のときにこそ福祉の充実が何よりの市民の安心に繋がります。一番自治体が力を入れなければならないのは、命に関わることです。国民健康保険の加入資格のある市民には、正規保険証を発行すべきと、次の内容を市当局に質しました。



蓼科山の一葉草

おげき・災害時の1人暮らしや高齢者世帯への対応をどのようにすすめるのか。

葛巻町（岩手県）の 自然エネルギー施設・政策を視察



岩手県葛巻町

新エネルギー施設・政策について

町の将来像を「地域の資源を宝に変えて、幸せを実感できる高原文化の町」をまちづくりの基本にしています。町の豊富な資源を活用した畜産バイオマスや木質バイオマスなどの開発・導入を推進し、資源循環型の社会の確立を図りながら、地域の特性を活かした産業の創出と育成を進めています。

公立保育所再編計画（H24～26年）

1. 拠点保育所
 - * 山川保育所
 - * みなみ保育所
 - * にし保育所
 - 松田保育所廃止 平成24年4月
 - * 梁田保育所
 - 久野保育所廃止 平成25年4月
2. 福居保育所民営化 平成26年
 - * 印は、拠点保育所と実施年度

市長・災害時対応マニュアルに基づいて、民生委員、防犯会、警察、消防と連携をとり、安否確認を行っている。

おげき・国保税の1世帯1万円引き下げを！

市長・収納額の減少と給付の増大が見込まれ、さらに経済状況の悪化から引き下げは難しい。

おげき・中学3年生までの子ども医療費、窓口無料化を！

市長・窓口無料化により医療機関にかかり易くなり、医療費が増加する。県からの補助、国庫負担が減り、市単独では負担が大きすぎる。群馬県のように県の制度助成として実施するように県に要望していく。

災害などに多くの市民が苦しむ中、従来の同様の答弁をくり返し、誠意のない回答になりました。

2、なぜ早く保育所の 統廃合・民営化！

昨年11月から、公立保育所の統合・民営化等の目的で検討委員会が設置され、この6月までの8ヶ月という短期間に開催され、終了しました。6月27日の全員協議会で結果が公表（左下表）されました。本来、検討委員会の内容は、公開することが必要です。

保育所は、児童福祉法24条の保育実施義務を果たす最も基本的な施設です。保育は公立で実施することが原則です。この立場にたつた保育所整備計画となるような検討委員会とならなければなりません。その立場から次の内容を市当局に質しました。

おげき・定利市保育所整備検討委員会は、どのように進められたのか。

市長・統廃合、拠点化、民営化など保育行政の計画的推進のために作られ、7回の委員会が現状と整備計画について議論した。

おげき・公立保育所のあり方についての懇談会、保護者との懇談会はこのように進めてきたのか。

市長・拠点化、民営化などについて議論し、保育所単位での説明会も要望により実施した。

おげき・実施までの期間があまりに短い当初予定通り、すすめていくのか。

市長・検討委員会の意見を基に平成23年度から順次実施していく。

保育所整備計画検討委員会は、3月11日の震災被害も加わり、さらに短期間となったこと、保護者への説明会も市民の意見を聞くというより、市側の提案を説明するという一方的な進め方となりました。十分な議論が求められます。

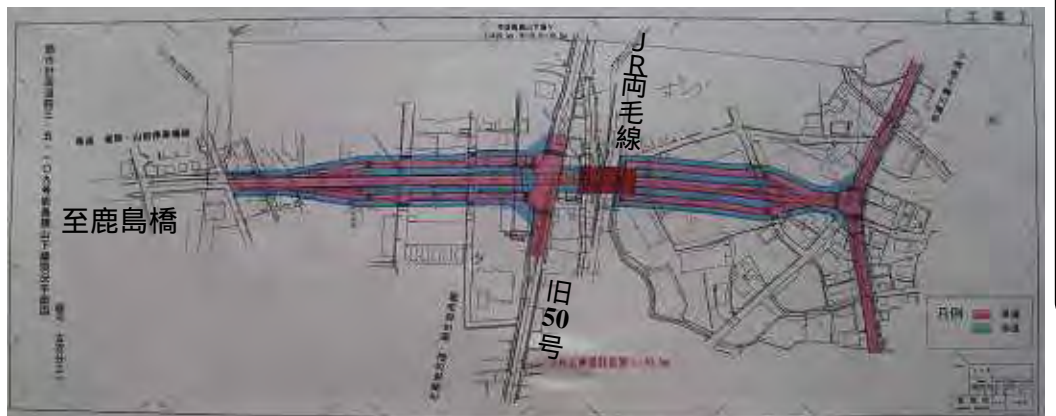
今、必要でしょうか？ 鹿島・山下線のJRアンダーパス



鹿島橋から旧50号線のT字路付近（現在）

市道鹿島山下線JRアンダーパス新設工事は、平成23年から26年までの4年間で、JRに工事額17億円（当初予算10億円）で委託する内容です。アンダーパスの豪雨時の排水ポンプ6億円など、隣接する工事を含めると30億円にもなります。この計画は39年前の昭和47年に都市計画決定され、平成10年に着手し、用地買収などに23億円が使われています。道路幅は18m、38.5m、大規模な計画となっています。

しかし、北側に繋がる道路は、市道三重小保通りで丁字路となり、北側への直進はできず幹線道路としての役割を果たすことができません。交通量は平成17年の調査では鹿島橋通行車両が12000台となっています。アンダーパス新設予定のJR両毛線の下には、江戸時代初期に作られた農業用水である柳原



旧50号線とJR両毛線をアンダーパス化する計画図

用水が脈々と流れており、燃糸業など産業にも大きく貢献した、この柳原用水の流れも大きく変えようとしています。住民が利用する地下水への影響も心配されます。福祉が削られていく中で、39年前の計画に沿って今、アンダーパスを造る必要があるのか、当初予算より7億も増額となった理由や災害時の対応など、これらの内容について十分な説明と議論が必要です。こうした理由で、おげき議員は、この工事委託に反対しました。